

ユネスコスクール入門講座 ②

【ユネスコスクールの学びは どう作るのか】

～ 真に主体的・対話的で深い学びを
実現する学校のつくり方 ～



令和6年5月9日(木)

16:00～17:30

ESD、SDGs推進研究室 室長
江東区立八名川小学校 元校長

手島 利夫

ユネスコスクールの学びはどう作るのか

- ① 主体的な学習の課題と進め方
- ② 課題解決に必要な7つの能力と評価
- ③ ホールスクールアプローチ
- ④ 各校の教育や自治体の教育政策を評価する視点
- ⑤ 総合的な学習の時間と学力の相関
- ⑥ S D G s 実践計画表とまとめ

あなたは、子ども時代から今まで

「主体的・対話的で深い学び」で

学んだこと、ありましたか？

私たちは、古い教育観の中で育ってきました。

- ・ 答え合わせをして、
合っていると安心できた。

知識・理
解

正解がある 基礎・基本

- ・ 学級には [できるやつ] がいて、
順位は変わりにくかった。

到達度評価

A B C や点数で評価されていた

主体的

自分たちで問題を発見し、その問題の解決のために学んできた？

対話的

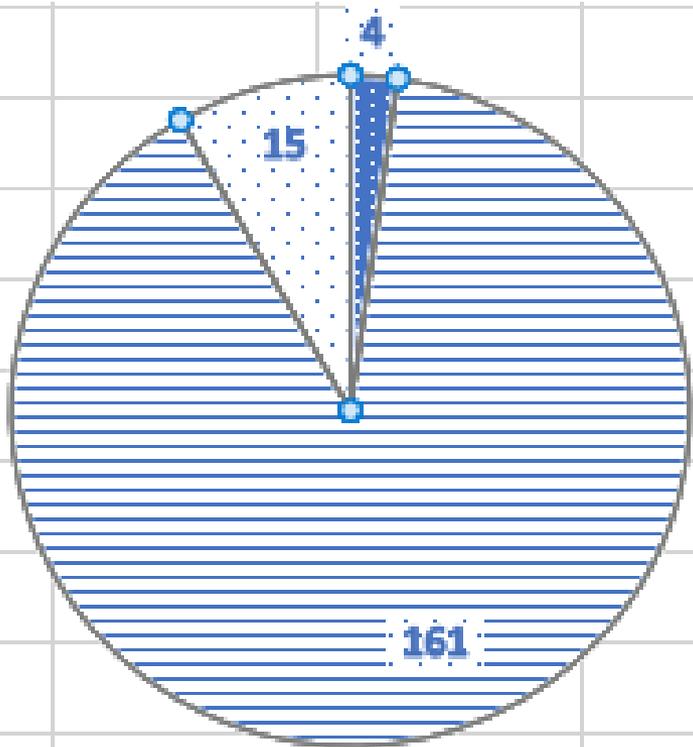
誰にも答えのわからない問題について、調べ、考え、話し合っ、みんなが納得するような答えを探してきた？

横断的

色々な教科等で学んだことを活かして、問題を解こうとしてきた

深い

学んだことを元に、自分たちの行動を変容させてきた？



学生さんたちに聞いた 主体的な学習体験の有無

ある国立大学教育学部 3年生
180名へのアンケート調査結果
2022年8月9日 手島利夫

- 4人・・・○ 主体的な学習をしたことがある
- 161人・・・× そのような学習経験はない
- 15人・・・△ 無回答

※ 先生方は主体的な学びになるよう、工夫を重ねていましたね！でも、その努力は子どもたちに見透かされていました。

「よく『子どもの思いや願いに
応じて』という言葉を目にする
が、それは指導上の建前で、実
際には教員のやりたいことを押し
付けられているなと感じてき
た。私が小学生の時に受けたエ
コに関する授業も先生から与え
られた課題をこなすことが目的
になっていて、エコに対する考
えが大して深まっていたわけでは
なかった。」

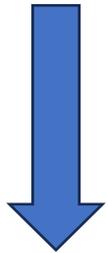
宇都宮大学・群馬大学共同教育学部 集中講義
「ESD教育法」授業後アンケートより

2022年8月9日

学びへの原動力

外的動機

成績の向上、親・教師の期待、内申点アップ、



学ぶ喜び

内的動機

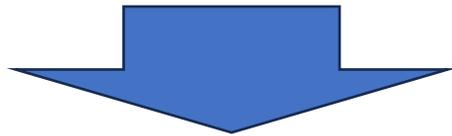
面白さ、体験、感動、驚き、共感、疑問、



SDGs時代の主体的な学び

SDGs時代の学び

知識・理解



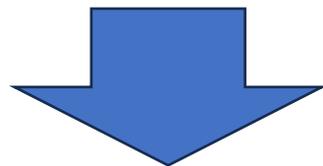
思考力、判断力、表現力

問題発見力

実践力

S D G s 時代の学び

親・教師の期待



意志ある学び

主体的・対話的な学習過程

調べさせ学習

【学びに火がついて】 ⇒ 【調べる】 ⇒ 【まとめる・実行する】 ⇒ 【伝え合う】

自分で問題に気づかない限り、主体的な学びは生まれない。

「計画する→調べる」というステップ。予想を立て、何時間で、どんな方法で、だれに聞いて、どこに行って、どうやって調べるか、どのようにまとめ、それを誰に伝えるかなど

ポートフォリオ等させを活用しながら、効率よくまとめる。発表練習では、助言カード等を活用する。友達と練習の交流をさせることで、説得力のある結論が導き出せる。

〇〇報告会、八名川まつり（ESD学習まつり）など、子どもたちが、学年や学校・地域を越えて発表したり、行動したりする場を設定する。自ら考えたことを進んで実行させる。

どのような学習活動を行えば、子どもに問題意識が生まれ、自分ごととして学びが始まるのだろうか。
子どもの学びに火をつけられる教師が求められている。

従来「調べ学習」と称して、調べさせ、まとめさせ、発表させていたのは「主体的な学び」ではなかった。
子どもたちは見抜いていた。

『こどもの学びに火をつける』際の3つのステップ

<問題に気づかせる>

- 1) 体験活動や提示資料をもとに基本的な事実と出会う
- 2) 体験したり資料を見たりしたことから、多様な気づきや感想などをもち、それを共有する。

<火をつける>

- 3) 教師が提示したり、子どもが調べたりして出合った矛盾する事実や意表をつく話や資料等から疑問を感じ、書き出す **エ〜ッ!**
自分ごとに感じさせる

<テーマを決める>

- 4) グループや学級全体で疑問を出し合い、分類・整理してまとめ、学習問題をつくる
- 5) 問題について、自分なりの予想をする

親しみ・憧れ・共感
不安・危機感

それらをひっくり返す

疑問から学習問題へ

「こどもの学びに火をつける」ために
あなたならどんな手立てをしますか

水と私たちの暮らし(4年社会科)

【学びに火がついて】



【調べる】



【まとめる・実行する】



【伝え合う】

- ・くらしと水
- ・浄水場のしくみ
見学
- ・行政の広域的な
協力
- ・家庭での協力
- ・水道キャラバン

- ・水の旅にまとめ、
物語をつくる
- ・浄水場のしくみを
水滴マンに解説さ
せる
- ・水道新聞で家庭に

- ・互いの作品への
コメントを書い
て渡し合う
- ・水を大切にす
るよう校内にも呼
び掛ける

<問題に気づかせる>

<火をつける>

<テーマを決める>

親しみ・憧れ・共感
不安・危機感



それらをひっくり返す



疑問から学習問題へ

あなたは授業計画として
「こどもの学びに火をつける工夫」
としてどんなアイデアで勝負しよう
と思いましたか？

グループに分かれてアイデアを出し合い
聞き合いましょう。全部で15分しかあり
ませんよ。

では、スタート！！

2

ESDで目指すこと

2. 持続可能な社会づくりのための 課題解決に必要な 「7つの能力・態度」

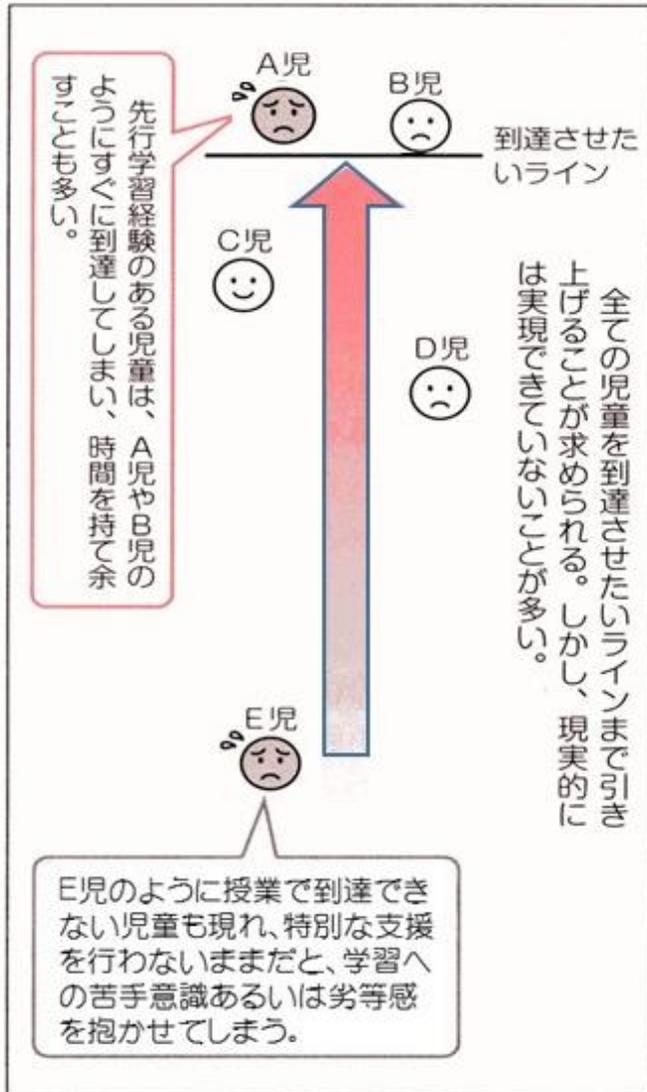
ESDの視点に立った学習 能力・態度(例)

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的・総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する力
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

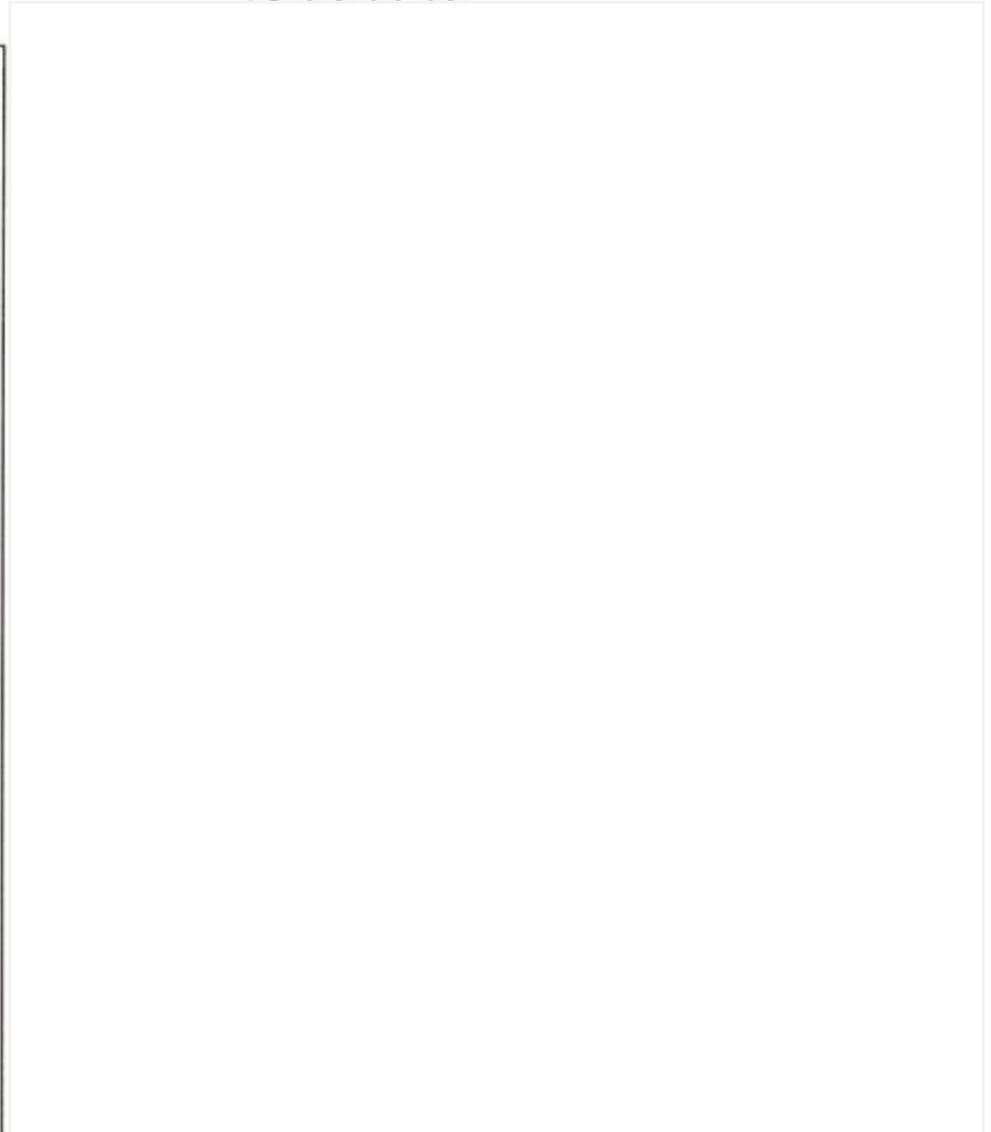
ESDの達成目標の指標として、こどもの成績をつける評価指標にしてしまうと、旧来の到達度による評価と変わらないことになります。また、これらは、「例」なので、ですから、学習過程の中で意識して見とるための視点として活用したり、育てたい力を考える際のヒントとしてお考えいただくというように思います。

国立教育政策研究所が示す「持続可能な社会づくりの6つの構成概念（例）」や「7つの能力・態度」は重要ですが、到達目標型の評価観からの脱却が前提です。

到達(達成)目標



方向目標



評価規準

批判的に思考判断する力

批判的に思考判断する力

問題解決的な学習で育てたい力 (ESDで育てたい力)	学習過程	重視する能力と態度
問題を見出す力 (コミュニケーションを行う力)	学びに 火をつける	自分の将来の夢について見つめ直し、具体的な道筋、派生する道筋について知る。
計画を立てる力 (多面的・総合的に考える力) 問題を追究する力 (コミュニケーションを行う力)	調べる	これまでに学習した多くの方法(本、インターネット、インタビュー)を活用し、多面的に調べることができる。 他者(本単元では社会人)の意見を活用し、自分の考えに取り入れることができる。
振り返る力	まとめる	学習ごとのワークシートを振り返り、自分の変容、もしくは変わらない思いに気付くことができる。
分かりやすく表現する力 (多面的・総合的に考える力)	伝え合う	八名川まっりの発表を通して、聞きに来る人たちの目線に立った発表方法を工夫することができる。
実生活に活かす力 (未来像を予測して計画を立てる力) (コミュニケーションを行う力)		自分の将来のこととつなげて考え、未来に向かっての見通しや意欲をもつことができる。
人と関わる力		周囲とのやりとりを通して、自身の価値観を変容させたり、再認識したりすることができる。

大曲南中ESD

【学習で身に付けたい力】

- ・批判的に考える力
- ・コミュニケーションを行う力
- ・多面的・総合的に考える力
- ・進んで課題を見つける力
- ・学んだことを発信する力
- ・生活に活用する力

E S D

永遠に 住み続けるための 土台づくり

大曲南中ESD キャッチフレーズ

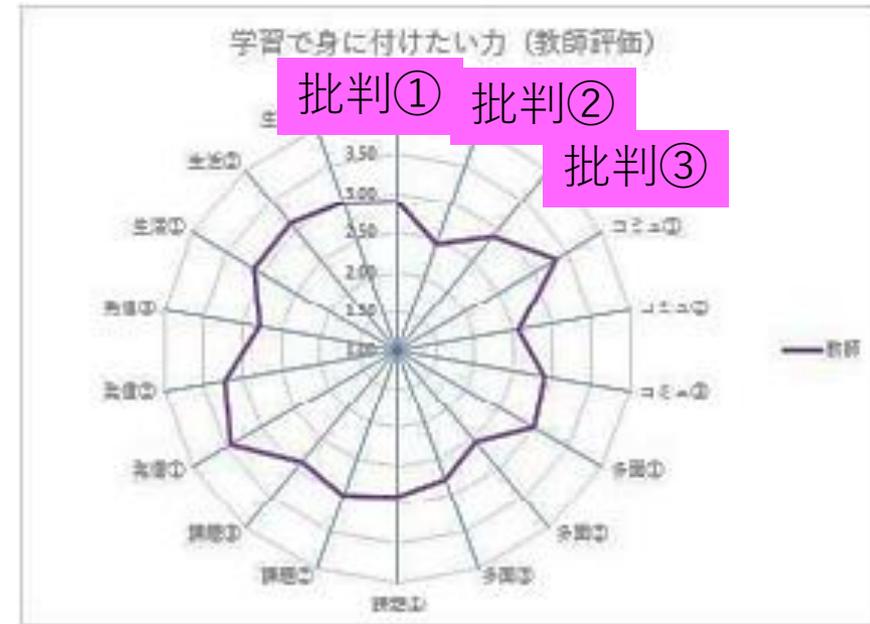
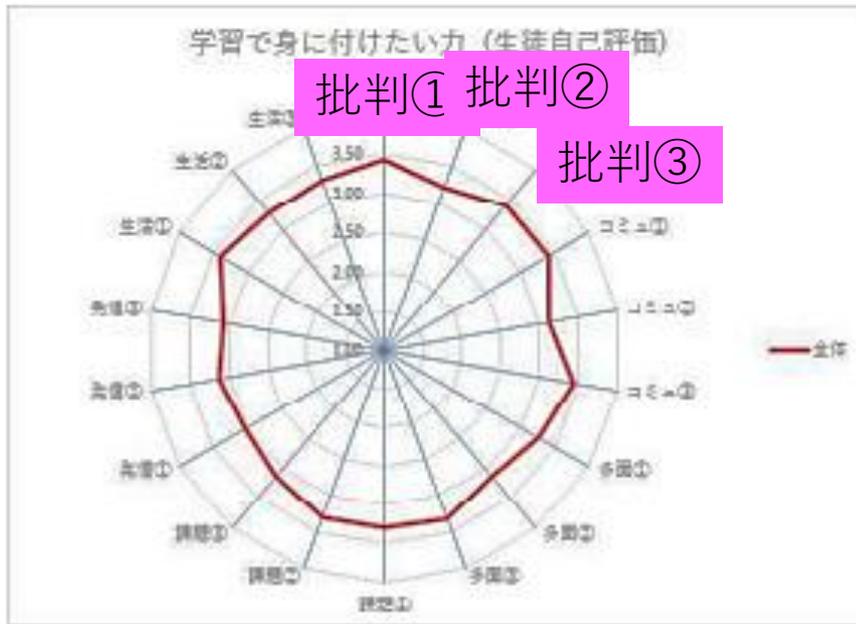
ESDの視点に立った学習指導で
重視する能力・態度 (例)

- ①批判的に考える力
- ②未来像を予測して計画を立てる力
- ③多面的・総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する力
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度

秋田県大仙市立大曲南中学校
(ユネスコスクール大賞の
ESD優秀賞の受賞校)
※ 同校ホームページを元に作成

大曲南中学校ESD「学習で身に付けたい力」についてのアンケート結果

- **批判的に考える** (批判①～③)
 - ①力活や学習の場で「どうしてだろう。」「これでよいのか。」と疑問をもつ。生活や学習の
 - ②自分の考えを吟味し、再構築することができる。
 - ③他の人の意見を聞いたり、話し合い活動をしたりすることにより、他の人の考えと自分の考えの共通点や相違点がわかり、合意形成したり代替案を提案したりすることができる。
- **「コミュニケーションを行う力」**(コミュ①～③)
 - ①話し合い活動などで、自分の意見を積極的に話したり、他の人の意見を聞いたりして、意見交換することは楽しい。
 - ②授業中や集会などで、声量、抑揚、話す速度、アイコンタクトなど相手を意識しながら話す。
 - ③周りの意見を聞き、自分の考えを見直し、相手に伝えるなどの双方向の話し合い活動をする。
- **「多面的・総合的に考える力」**(多面①～③)
 - ①課題(物事)をメリット・デメリットの両面から見る。
 - ②課題(物事)を、1つの見方だけではなく様々な切り口から見て、自分の考えを総合的に創り出す。
 - ③課題(物事)に対して、自分の意見をはっきり言ったり、他の人の意見を聞いたりする話し合い活動を通して、様々な情報を基に、協力してよい考えを生み出す。
- **「課題を見つける力」**(課題①～③)
 - ①日頃、ニュース等の報道や世界の出来事について興味をもったり、疑問をもったりすることがある。
 - ②日常の生活の中で、「これはどうなんだろう?」「ここが不思議だ?」と思うことがある。
 - ③教科や総合的な学習の時間において、疑問に思ったり、不思議だと感じたりすることから、探究する課題を設定することができる。
- **「発信する力」**(発信①～③)
 - ①学習したことや調べたことを、学級内や校内外の人たちに伝える。(授業、集会、学習発表会、南中祭、中学生サミット、他の発表会 など)
 - ②調べたことを新聞やレポート、プレゼンテーション、動画等に工夫して分かりやすくまとめ、発信する。
 - ③学んだことや考えたことを、伝える対象者を意識して、誰でも分かるように筋道を立てて発表する。
- **「生活に活用する力」**(生活①～③)
 - ①学校で学んだことから、自分のとるべき行動を考え、実行している。
 - ②学校以外の家庭や地域で、学校で学んだこと意識して行動する。
 - ③今、自分が行っている取組は、SDGsの達成につながる。



※資質・能力ごとの平均

生徒

- ・ **批判的に考える力** …3.34 (3.35)
 - ・ コミュニケーションを行う力 …3.33 (3.29)
 - ・ 多面的・総合的に考える力 …3.24 (3.33)
 - ・ 課題を見つける力…3.24 (3.12)
 - ・ 発信する力 …3.08 (2.92)
 - ・ 生活に活用する力…3.33 (3.00)
- () は令和4年度

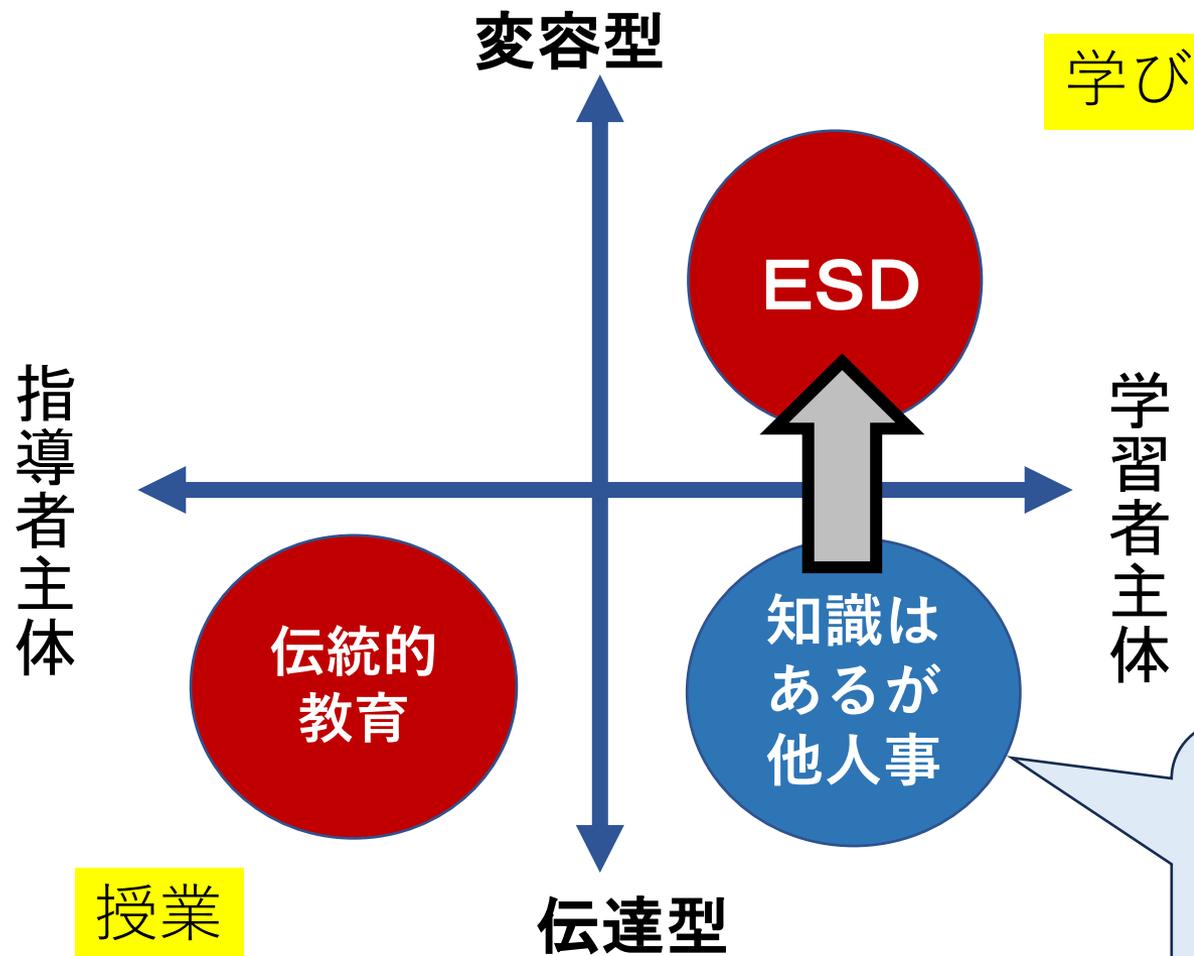
教師

- ・ **批判的に考える力** …2.74
- ・ コミュニケーションを行う力 …2.93
- ・ 多面的・総合的に考える力 …2.78
- ・ 課題を見つける力…2.93
- ・ 発信する力 …3.15
- ・ 生活に活用する力…3.07

SDGsの時代の教育のあり方

- ① 指導者（大人）主体から、学習者（子ども）主体へ
- ② 知識伝達型から変容型へ

SDGsの時代の教育のあり方



気候変動を自分事に捉える16~25歳は、

フィリピン	84 %
インド	68.1%
フランス	58.1%
イギリス	49.1%
アメリカ	46.6%
日本	16.4%

国谷裕子氏の講演20231214より

こんな子どもを育てる教育しかできていないのでは、日本の教育の名折れと思いませんか？

⑩ホールスクールアプローチ（66～68）

令和元年の八名川まつりESDパワーアップ交流会は、10月19日（土）。児童の発表内容・研究交流の日程等は、江東区立八名川小学校ホームページからご確認ください。

ホールスクール・アプローチ

第7回八名川まつり発表内容

<p>15 誰の責めか 守ろう</p> 	<p>1年 秋のおもちゃの店 ドングリやまつぼっくりで楽しもう</p>	
<p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p> 	<p>2年 うごくおもちゃ大しゅう合 ゴムで、風で、坂道で・・・いっしょにあそぼ！</p>	
<p>11 住み続けられる まちづくりを</p> 	<p>3年 八名川タイムトラベル 町の史跡や道具を調べて語ります。</p>	
<p>3 すべての人に 健康と福祉を</p> 	<p>4年 やさしさパワーアップ大作戦 妊婦さん・外国人・お年寄り・・・</p>	
<p>11 住み続けられる まちづくりを</p> 	<p>5年 今やろう！ 地震から身を守る備えを！ 保護者や地域の方と備えを語る</p>	
<p>8 働きがいも 経済成長も</p> 	<p>6年 未来にはばたけ！ ～小学校卒業研究～ キャリアの視点から将来設計と学び方を語る</p>	

八名川まつりのような

「全校児童（生徒）によるE S D学習発表プレゼンまつり」 をすることの価値

- ① 一人一人の子どもが、「大人から子どもまで様々な世代の方に向かって、**自分の学びを、何回も語る。**」という経験ができる。
人に伝える中で、自分の学びへの深い理解が進む。
- ② 多くの人に認められ、**自信と誇りと課題意識が育つ。**
- ③ テーマごとにグループを作って学び・まとめ・発表することで、**開かれた学年**ができる。
- ④ **あこがれ**をもって上級生の取り組みを見る中で、毎年、無意識のうちに、前年の取り組みを越えようと工夫され、全校の学びの質が、自動的に高まる。

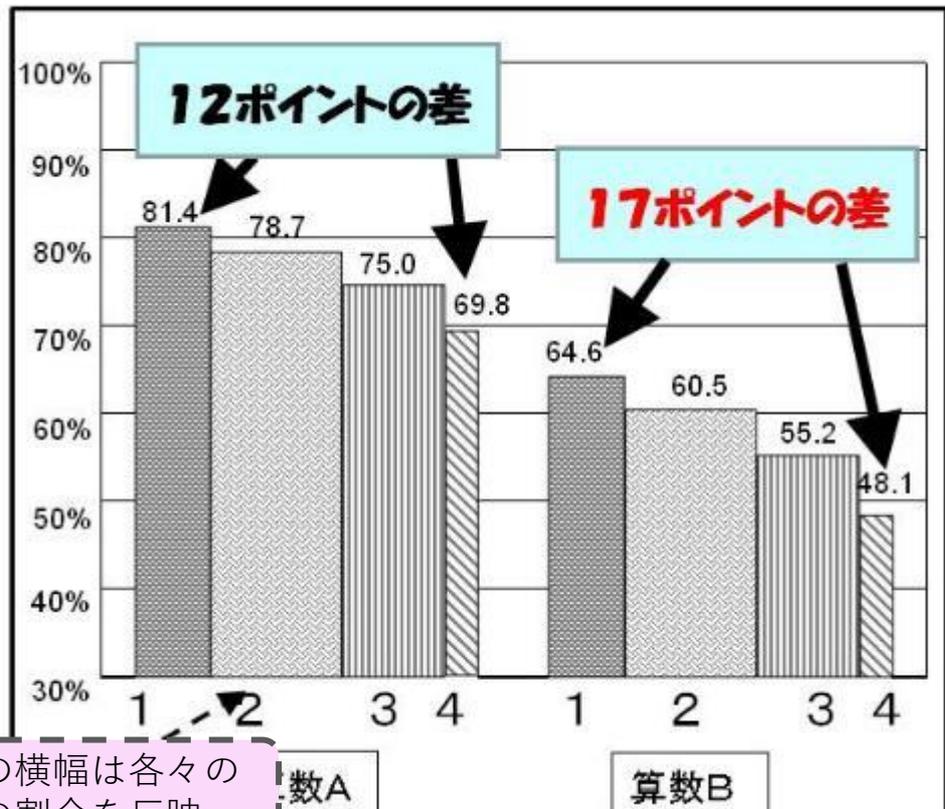
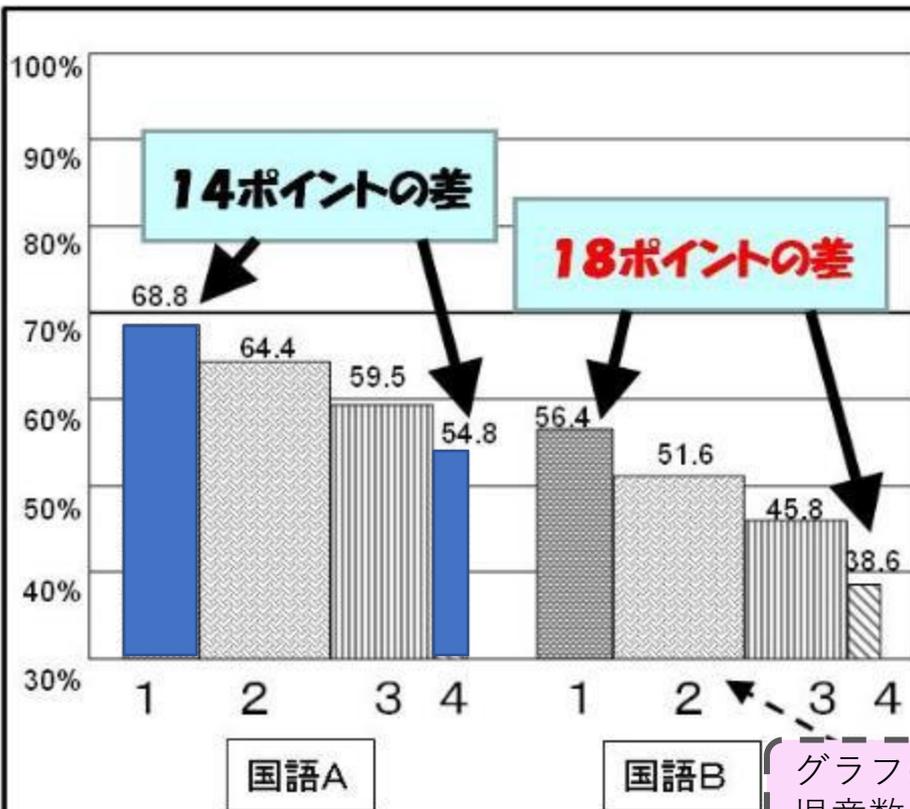
これを教育課程に位置づけるのもカリキュラムマネジメントです

総合的な学習の時間と学力の相関

H25全国学力・学習状況調査(小学校6年生)

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて、情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の回答と平均正答率のクロス集計

- *「1 当てはまる」「2 どちらかといえば、当てはまる」
- 「3 どちらかといえば、当てはまらない」「4 当てはまらない」



グラフの横幅は各々の児童数の割合を反映

総合的な学習の時間と学力との相関

H25全国学力・学習状況調査(中学校3年生)

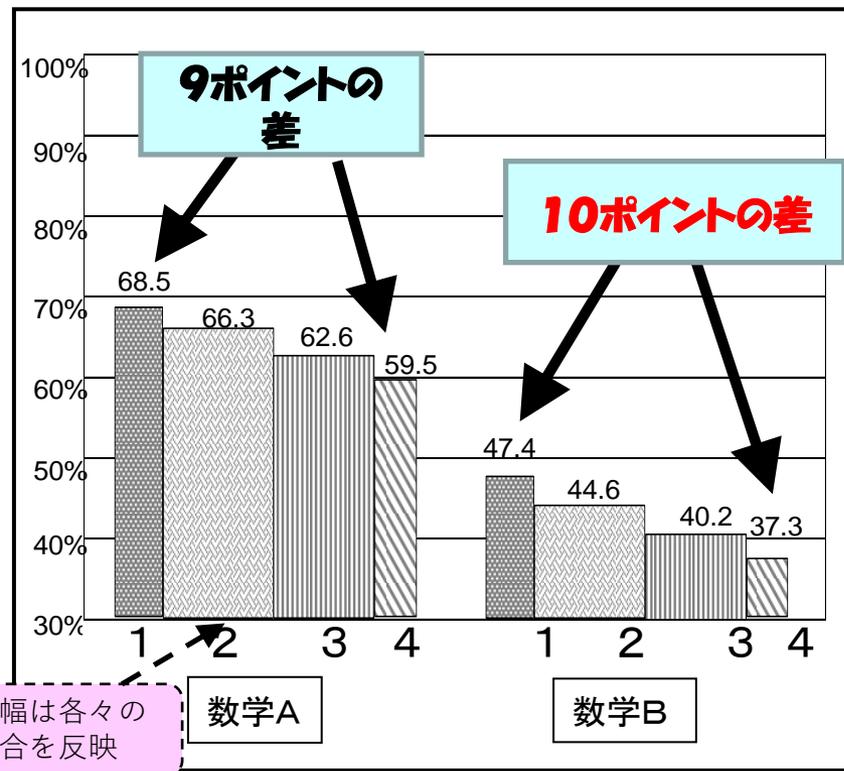
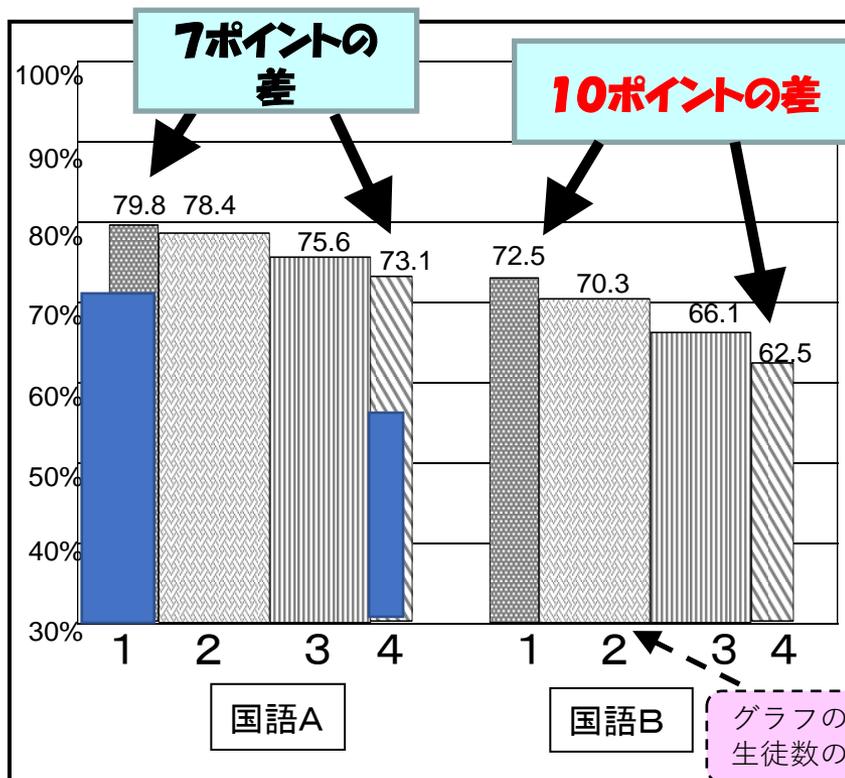
中学校でも同じ!

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて、情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の回答と平均正答率のクロス集計

*「1 当てはまる」「2 どちらかといえば、当てはまる」

「3 どちらかといえば、当てはまらない」「4 当てはまらない」

「総合的な学習の時間」の趣旨に即した活動に取り組んでいる生徒ほど、平均正答率（特にB問題）が高い。



グラフの横幅は各々の生徒数の割合を反映

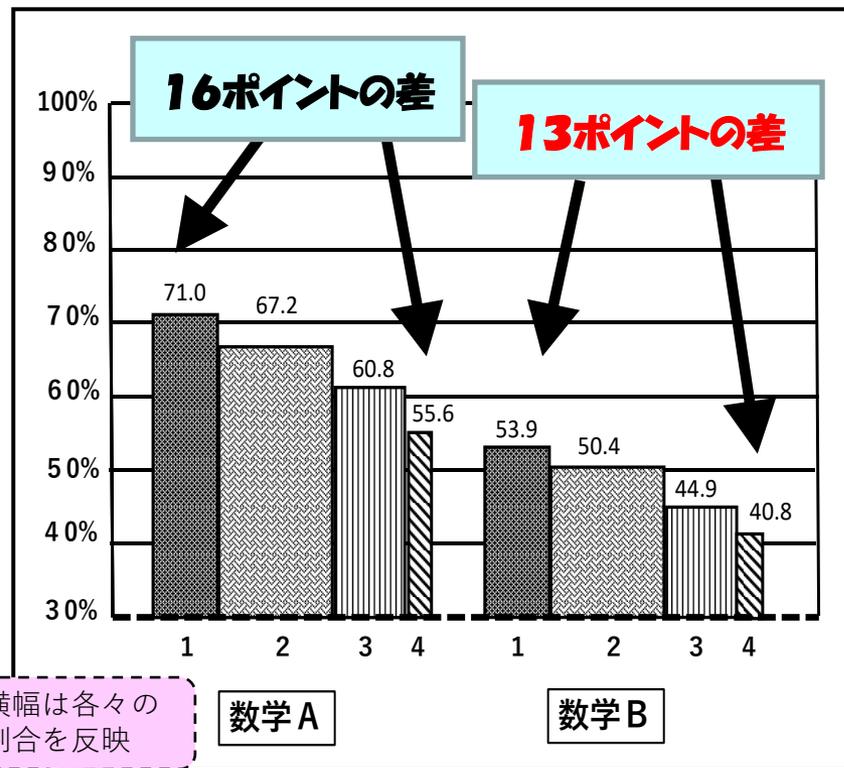
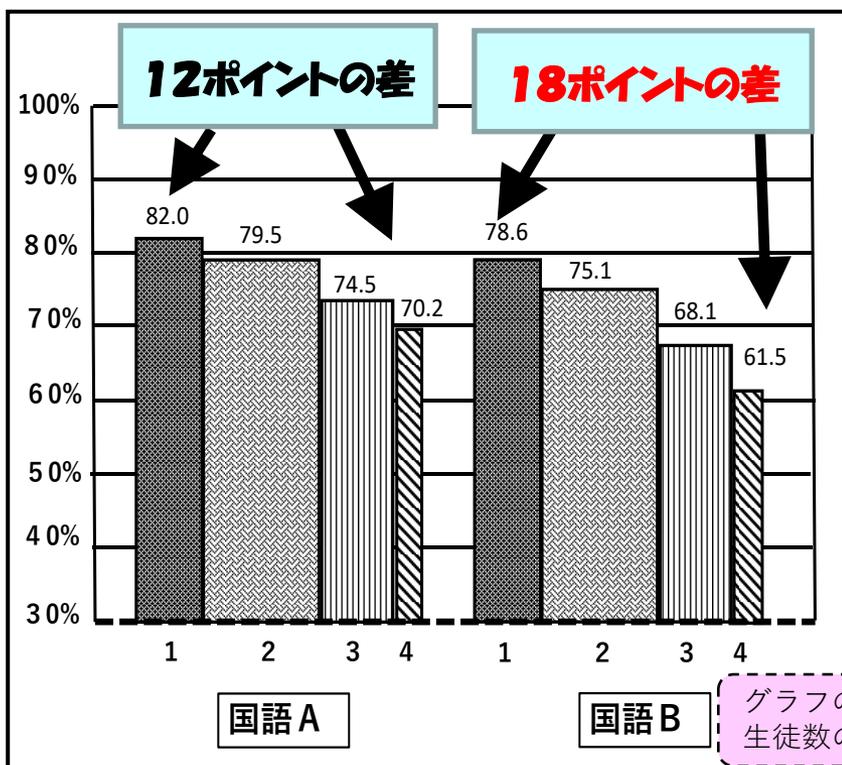
総合的な学習の時間と学力との相関

H29 全国学力・学習状況調査(中学校3年生) 中学校で大きな改善が進行中!

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて、情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の回答と平均正答率のクロス集計

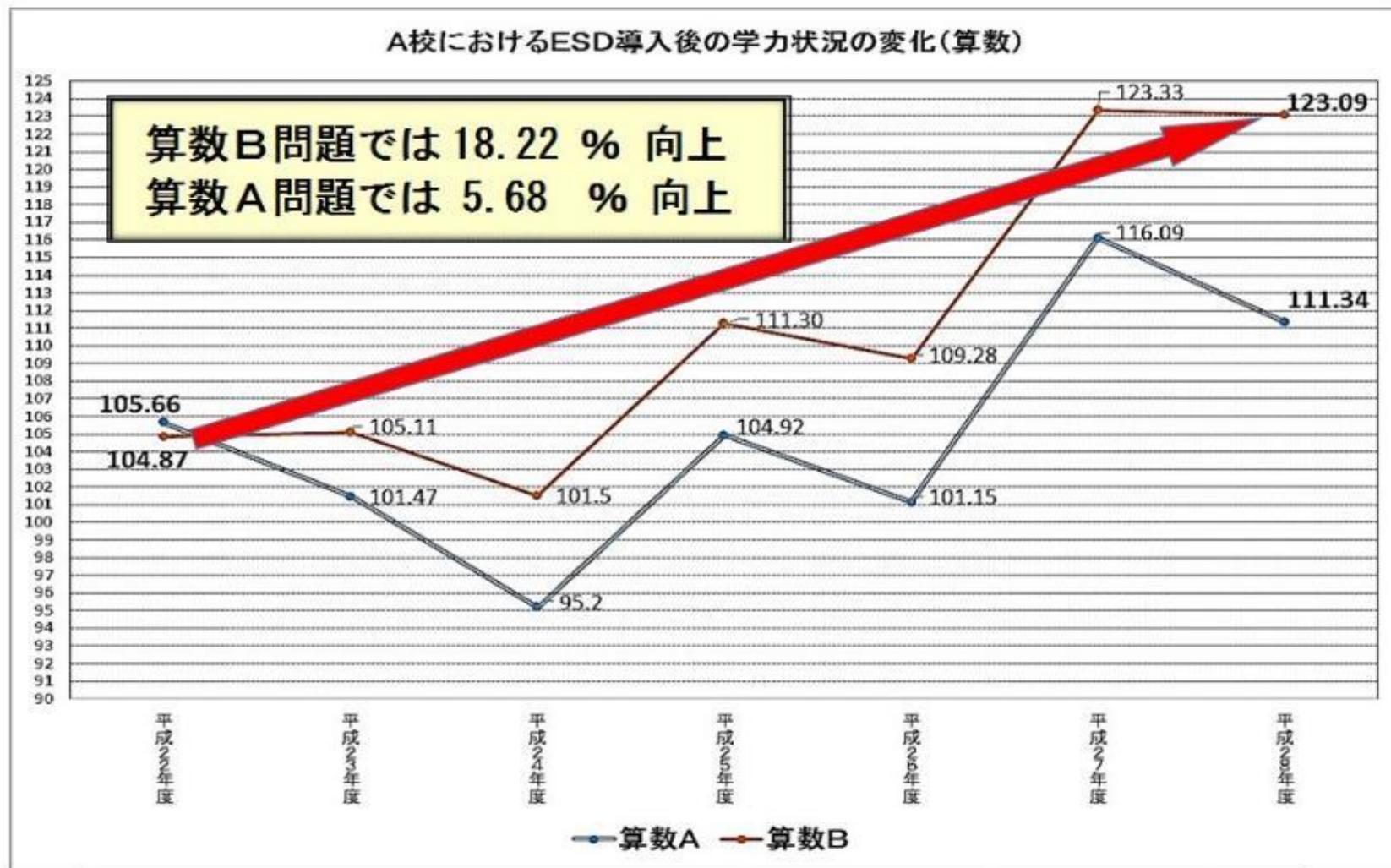
- *「1 当てはまる」「2 どちらかといえば、当てはまる」
 「3 どちらかといえば、当てはまらない」「4 当てはまらない」

その後、中学校の「総合的な学習の時間」の充実が進んだようで、「4 当てはまらない」生徒との平均正答率の差が年々拡大しています。



グラフの横幅は各々の生徒数の割合を反映

総合ESDの充実が、学力も向上させた江東区立八名川小学校の事例



Bの《活用能力》を 15%、18% 向上させるって、とても大変なことですよ。

その場限りの学力向上策?は、愚策です。学力は、学びの後からついてくるのです。

学力以外での児童の変化

- ① 学習全般に対する積極性が高まる
- ② 子ども同士の人間関係が穏やかになる
- ③ 誰の意見に対しても尊重し、聞き合えるようになる
- ④ 大人に対する信頼感が高まる
- ⑤ どの学年もプレゼン能力が飛躍的に高まる
- ⑥ 全校集会など、児童の活動が主体的になり、質も向上
- ⑦ 高学年が頼りになる

教員の変化、保護者や地域の変化

- ① 子どもを怒鳴りつけるような指導が影を潜め、
- ② 子どもの学びに火をつける工夫をしようとする
- ③ 的確な指示・説明や称揚が増える
- ④ 前年までの指導を共有・改善し、授業を進化させる
- ⑤ この学校で働けることに誇りと喜びを感じる
- ⑥ 保護者アンケートが感謝の言葉で始まるようになった
- ⑦ 保護者・地域は参観から参画へ、そして協力者へ

⑪各校の教育や自治体の教育政策を評価する視点（68～

69）
さて、このような重要な教育改革が皆さんの学校には届いているでしょうか。

皆さんの日頃の教育観は、これらの視点を踏まえているでしょうか。また、各学校の「教育課程」は（教育目標やその具体化のための指導方針）などを次の視点から見直すのも重要です。

学校評価でもご活用ください。

各校の教育や自治体の教育政策を評価する視点

自校の教育課程を見直す 学習指導要領のキーワードが教育課程に明記されているか チェックリスト

学習指導要領の前文														学習指導要領の総則																															
教育理念				教育課程編成				教育課程実施																																					
持続可能な社会の創り手の育成など教育目標に直結するキーワード				教科等横断的なカリキュラム・マネジメントによる教育活動の質の向上				主体的 対話的で深い学びに向けた授業改善																																					
								学び方			資質・能力																																		
記載の有無																																													
学習指導要領のキーワード				持続可能な社会の創り手				生きる力				社会に開かれた教育課程				カリキュラム・マネジメント				教科等横断的な指導				総合的な学習（探究）の時間の充実				言語・情報・問題発見・解決等の能力				主体的		対話的		深い学び		探究的な学習過程		知識及び技能の習得		思考力・判断力・表現力		学びに向かう力・人間性	

- 「子どもの学びに火をつける」ことができない教師は子どもの立場に戻って学び直そう
- 一人の教師が、同じ単元を毎年授業できるわけではない。
- 授業用の資料・活動のさせ方・依頼の手紙文、作品例など学年・単元名の入ったフォルダを作り、共有する。
- それによって、だれもが互いの実践を共有すること。
- うまい火のつけ方なんて、だれもができるわけでない。だから、力を合わせて単元開発をする。情報交流と蓄積！
- 一つの学年で、一年間に一つの単元(導入から終末まで)の開発ができたならそれで十分。3年間くらいかけると年間の主な指導計画ができてくる。それがカリ・マネにもなる。コピーして形だけ整え、実践をしないのは、いけない。

ユネスコスクール入門講座 ①

【ユネスコスクールって何をするの】

～ SDGs と学習指導要領を踏まえた
ユネスコスクール入門講座 ② 教育の推進拠点～

【ユネスコスクールの学びは
どう作るの
か】

～ 真に主体的・対話的で深い学びを

実現する学校のつくり方～